資料編

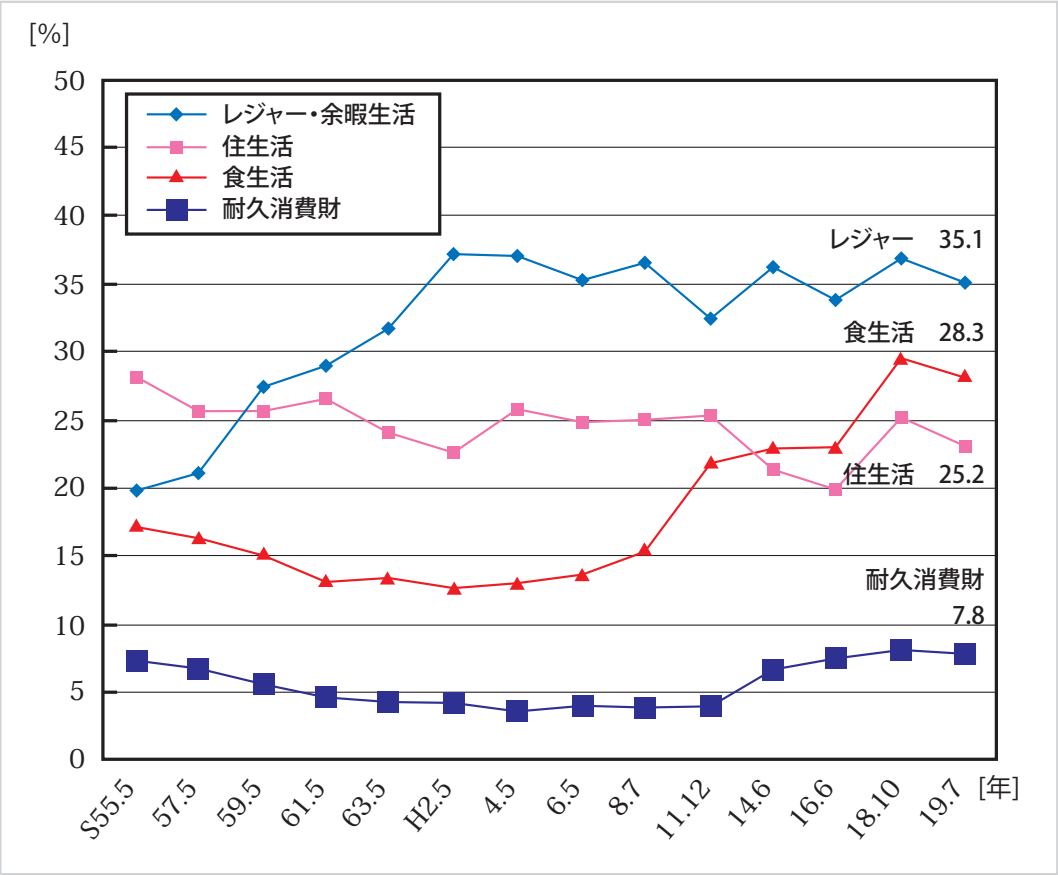
山口ゆらめき回廊（平成 21 年シルバーウィーク期間）

資料Ⅰ　観光を取り巻く基本潮流

1　ライフスタイルの変化

国民の余暇時間が増加したことで、余暇活動は、衣食住に並ぶ独立した生活要素として重要な位置を占めてきています。

「国民生活に関する世論調査」によれば、今後、「生活のどのような面に力を入れたいと考えているか」の設問でも、「レジャー・余暇生活」に置くと回答した割合が、昭和58年以降、「住生活」、「食生活」を大きく上回る傾向が続いています。



図表１　今後の生活の力点の推移

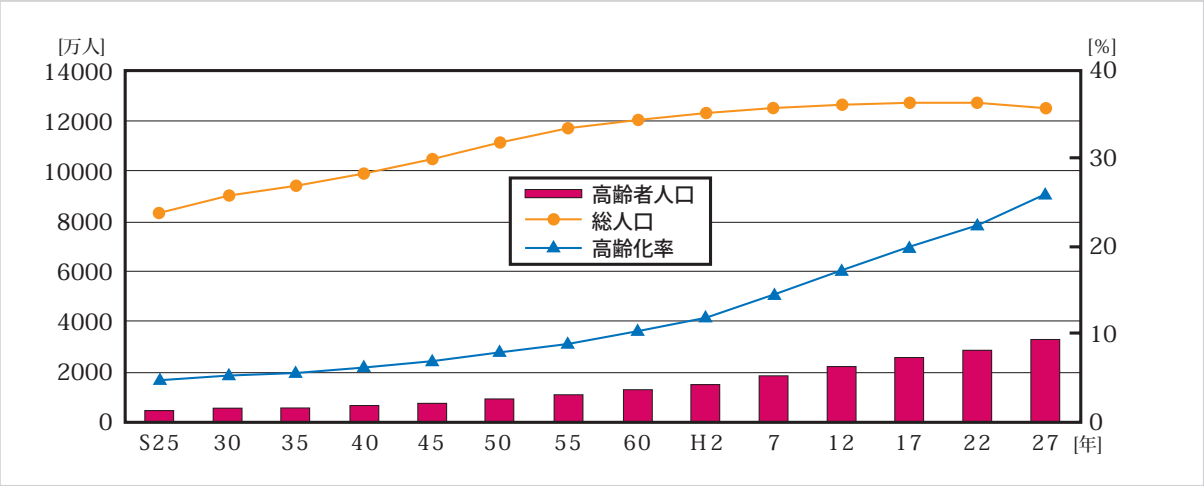
（資料：１　内閣府大臣官房政府広報室「国民生活に関する世論調査」（平成19年７月による））

（資料：２　耐久財：自動車、電気製品、家具などの耐久消費財の面）

週休２日制やハッピーマンデー制度の施行による連休の増加が自由時間の増加を生み、旅行機会の増加につながっています。また、旧来型の団体・法人旅行から、自由度の高い個人・小グループ型観光へシフトし、旅行形態も「見る」観光から「体験・交流」型の観光へと変化してきており、観光ニーズの多様化・個性化への対応が求められています。

2　少子高齢化・人口減少社会の到来

日本の総人口の５人に１人は、65歳以上の高齢者となっており、本格的な高齢社会を迎えています。



図表２　日本の総人口及び高齢者人口の推移

（注）平成 17年までは総務省「国勢調査」による。
平成 22年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成 14年４月）」による。

また、昭和 22年～ 24年生まれの「団塊の世代」が大量退職を迎えており、この世代が観光にもたらす影響に期待が高まっています。豊富な消費力・余暇・元気を持ち、様々な志向を持つ団塊の世代に対して満足できるサービスを提供することで、新たな旅行需要が期待されます。

また、高齢化とともに少子化が進行しており、平成 17年をピークに日本の総人口は減少に転じ、長期に渡る人口減少局面を迎えました。人口減少の影響は、１人当たり年間約121万円の消費額の減少と試算されており、地域経済の衰退が懸念されます。

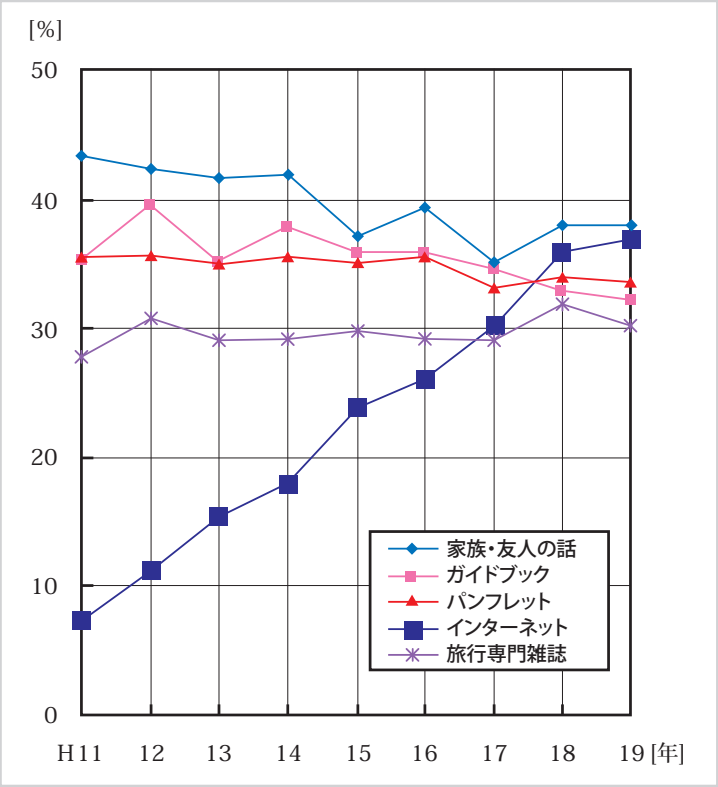
一方、観光旅行者１人１回当たりの消費額は、宿泊旅行で５万４千円、日帰り旅行で１万６千円と試算されており、地域経済の活性化に向けて交流人口の拡大が必要となっています。

3　情報化の進展

インターネットや電子メールの普及によって、個人レベルでの情報収集や施設の予約等が容易になっており、旅行エージェントを介さずに、旅行者自身が観光地情報を検索・収集したり、チケットや宿泊先等を予約したりすることが増えています。

また、携帯電話の全年代層への普及および端末のマルチメディア化もあり、携帯端末でのインターネットやメールの利用、電子マネーや電子チケットなどを使用したマネーレス・チケットレスサービス等、必要な情報をいつでもどこでも瞬時に得ることができる情報化社会が本格的に訪れようとしています。

こうした情報化の進展により、疑似体験ができる、いわゆる「バーチャル旅行」が可能になってきたため、インターネットでは得られない味覚や嗅覚、聴覚、触覚など、体験観光がより重要となっています。

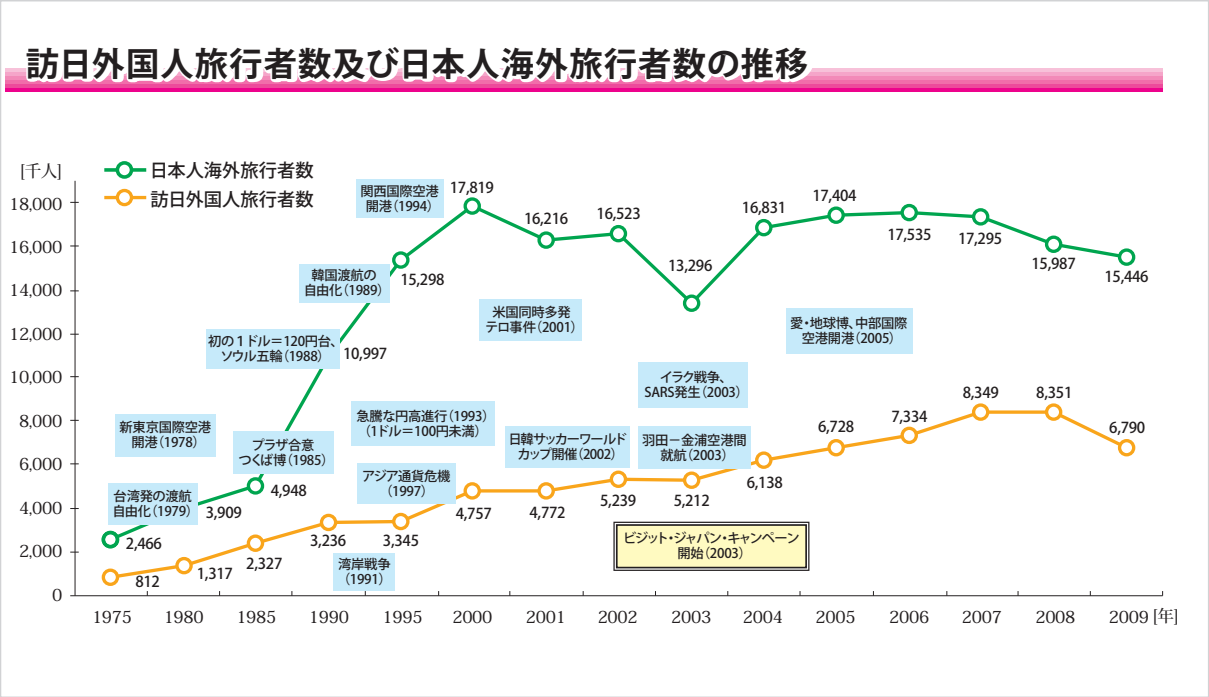


図表３　旅行の参考にする情報源

（資料：社団法人日本観光協会「観光の実態と志向」による。（15歳以上：複数回答））

4　国際化の進展

気軽に国内外へ旅行に出かけるようになっており、世界的に国外への旅行者は年々増えています。平成 12年以降の円安傾向や、ビジット・ジャパン・キャンペーンの効果もあり、訪日外国人観光客が増加しており、アジア各国では海外旅行、特に日本への旅行がブームになっています。



図表 4　日本人海外旅行者数、訪日外国人旅行者数の推移

（資料：法務省資料に基づき国土交通省作成）

平成 20年後半からの急激な円高の進行により、平成 21年の訪日外国人数は伸び悩んでいますが、平成 21年７月からの中国人の個人ビザ発行措置などの実施により、訪日外国人数増加の追い風になっています。

5　自然環境の保全と健康志向

近年、環境や自然、健康に配慮したライフスタイルが注目され、観光においては、自然を生かしたグリーン・ツーリズム、エコ・ツーリズムといった自然体験型の観光が注目されています。

また、消費者の農産物に対する安全・安心志向も高まっており、地場農産物への安心感から「地産地消」が注目されています。

6　著しい社会情勢の変化

世界金融危機による景気の低迷や急激な円高の進行、さらには、新型インフルエンザの流行など、経済危機・感染病・自然災害など観光産業にダメージを与えかねない要素が山積し、国内のみならず外国からの観光の差し控えが懸念されています。

また、国の政策転換による観光産業への影響も考えられます。

このように観光産業は、環境の変化の影響を受けやすいことから、経済・環境・政治の変化に対し、柔軟に対応できる足腰の強い観光まちづくりが求められます。

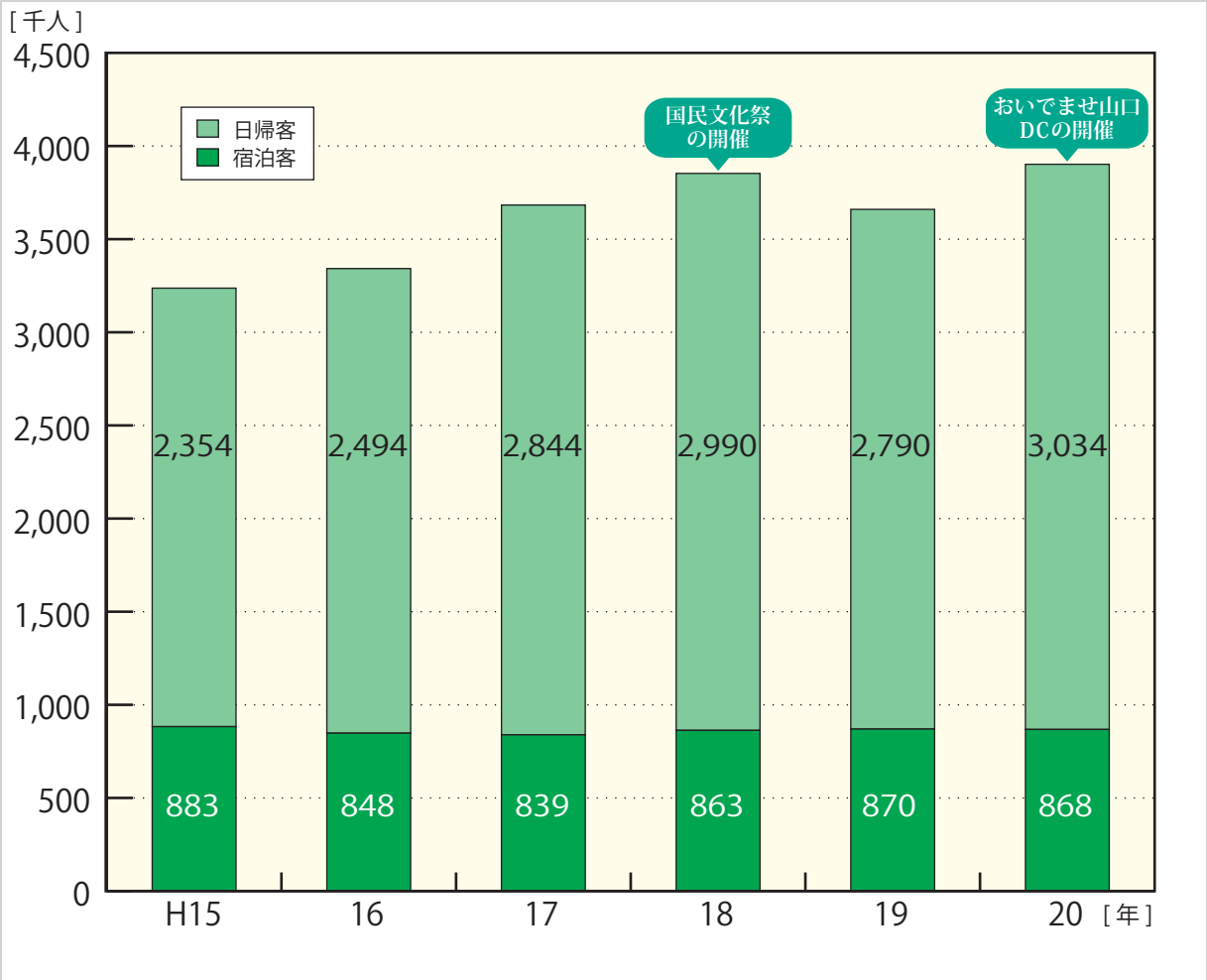
資料Ⅱ　山口市の観光を取り巻く現状と課題

1　山口市の観光の現状

①　観光客数の推移

本市を訪れる観光客数は、平成 18年の「国民文化祭やまぐち」、平成 20年の「おいでませ山口デスティネーションキャンペーン」の効果による増減はあるものの、全体的には増加傾向にあります。

日帰り客と宿泊客については、日帰り客が宿泊客を大幅に上回っています。また、日帰り客は、増加傾向にありますが、宿泊客は、ほぼ横ばいで推移しています。

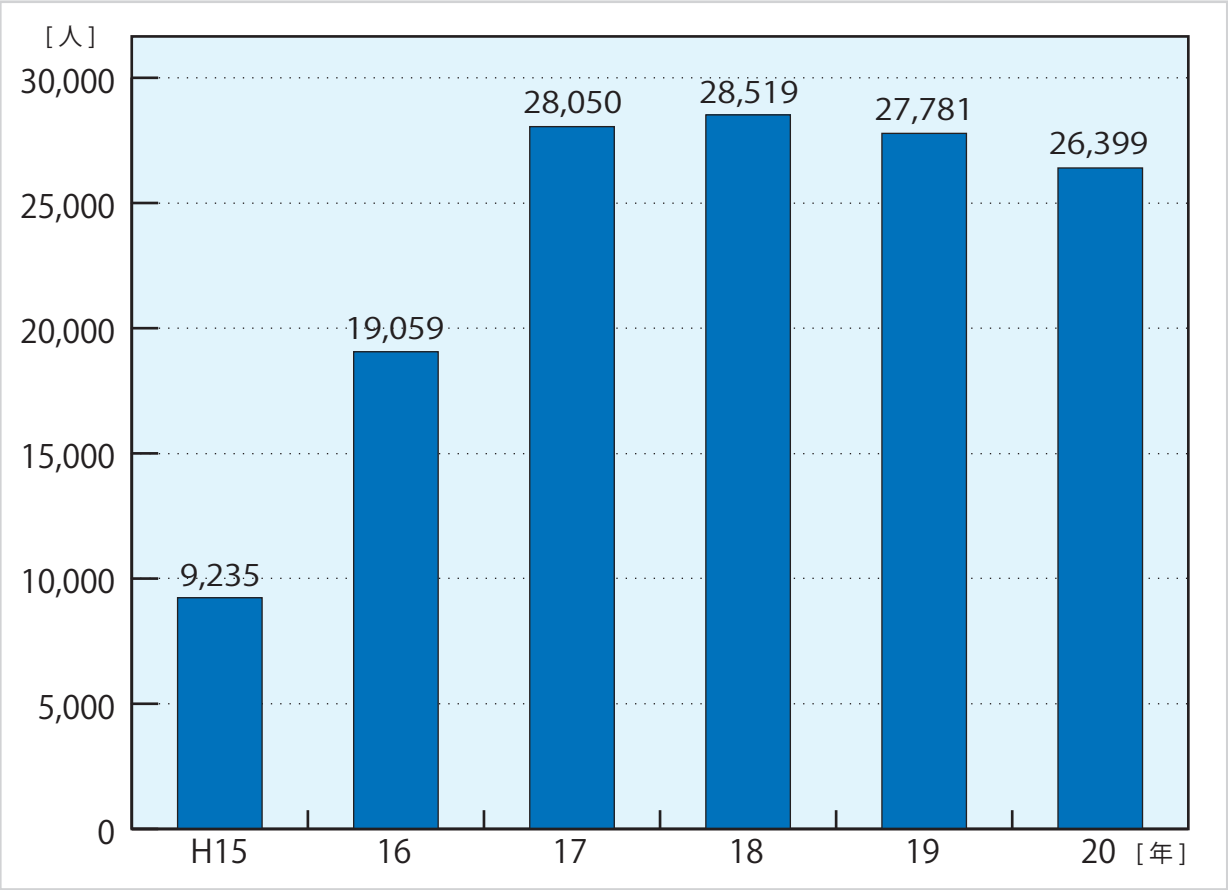


図表５　観光客数の推移（年別）

（資料：山口市観光客動態調査 H20、旧阿東町観光客動態調査 H20）

本市の観光客数の内、外国人の占める割合は、平成20年で0.7％と大変低くなっています。

地域別ではアジア地域が最も多く、本市に訪れる外国人観光客全体の74％を占めており、国別では韓国・中国・台湾の順となっています。

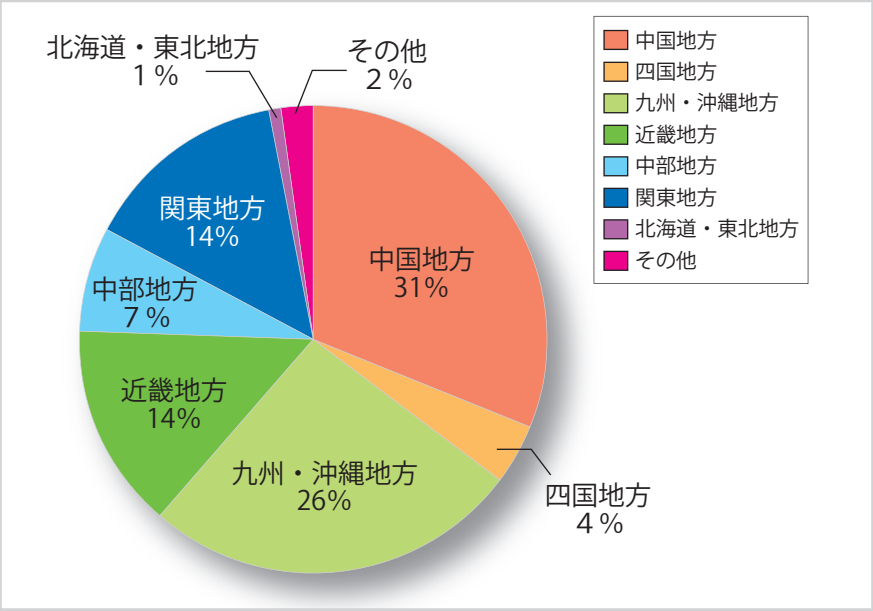


図表６　訪日外国人観光客数の推移

（資料：山口市観光客動態調査 H20、旧阿東町観光客動態調査 H20）

②　観光客の発地

本市を訪れる観光客のうち「中国地方」が 31％で最も多く、次に「九州・沖縄地方」が26％で、これらが全体の過半数を占めています。次に多いのは「近畿地方」と「関東地方」で、どちらもほぼ同じ割合となっています。

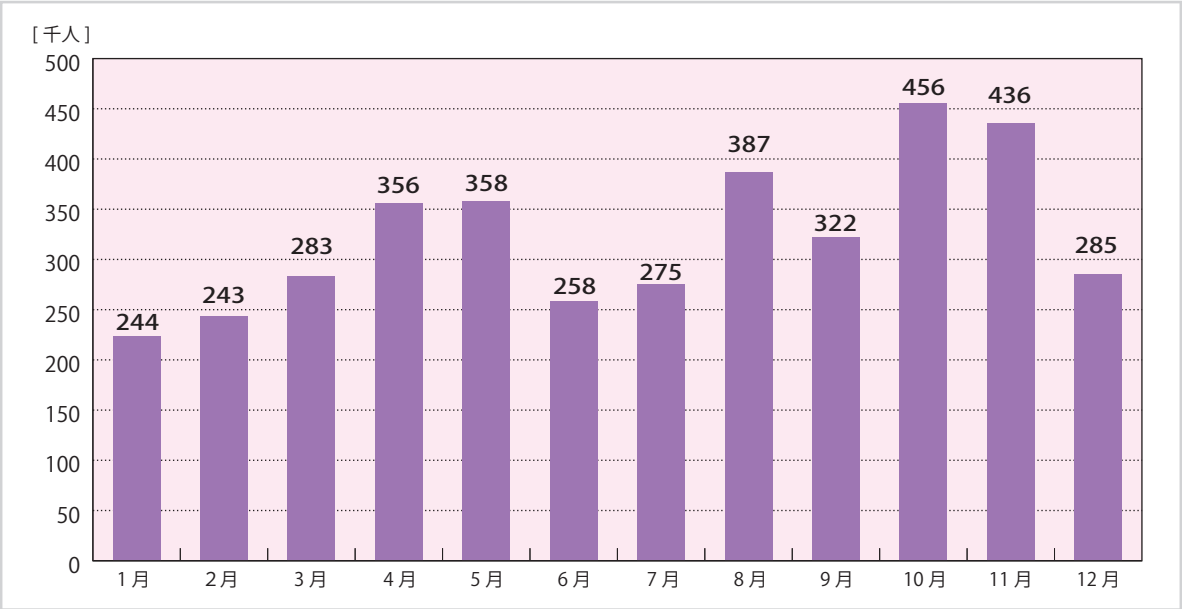


図表７　観光客の居住地

（資料：山口市観光客動態調査、H20 旧阿東町観光客動態調査 H20）

③　来訪の時期

来訪時期としては、４月～５月、８月、10月～ 11月と、年３回ピークがあります。逆に、６～７月と冬期は、観光客数が少なくなっています。

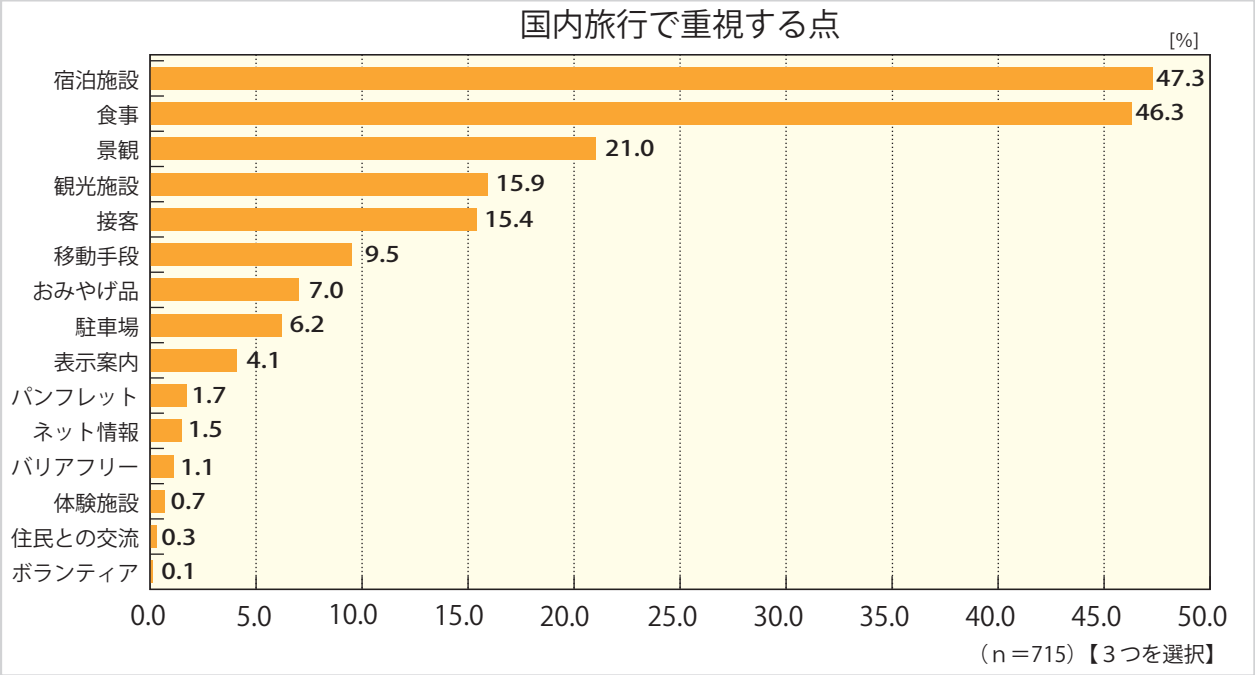


図表８　観光客数の推移（月別）

（資料：山口市観光客動態調査、H20 旧阿東町観光客動態調査 H20）

④　観光アンケート調査の結果

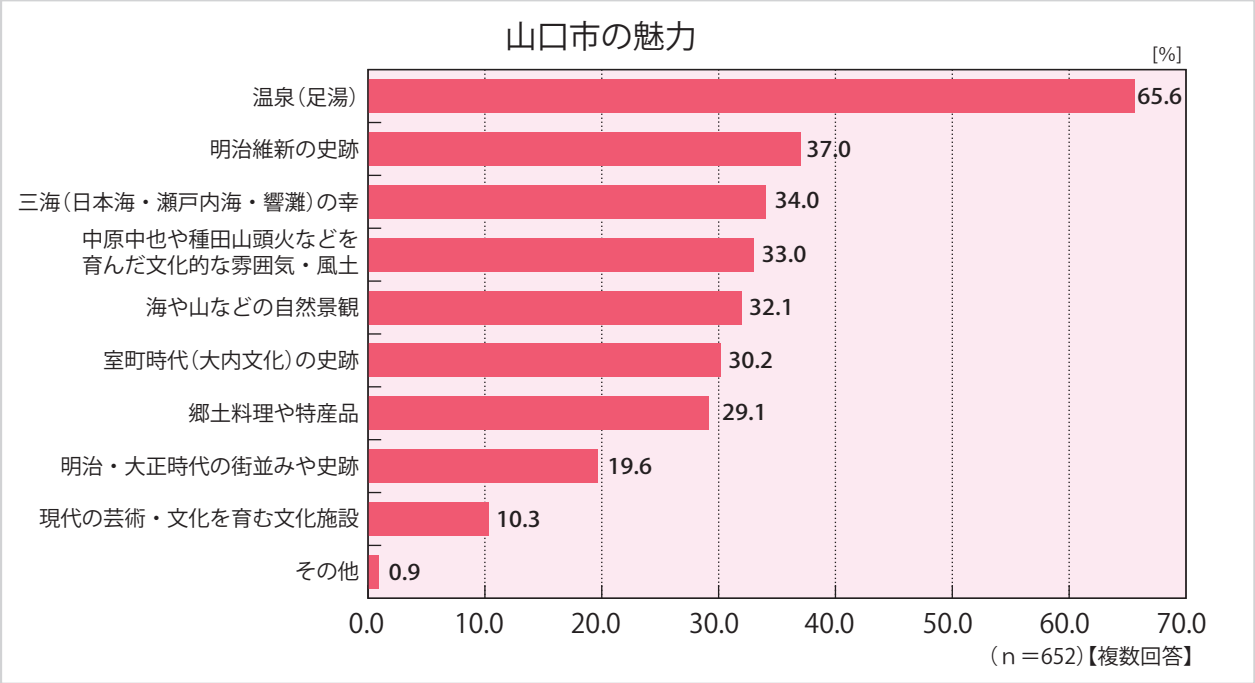
平成 20年に実施した「宿泊者アンケート調査」によると、国内旅行で重視する点として、ほぼ半数の人が「宿泊施設」と「食事」を選択し、続いて「景観」、「観光施設」、「接客」の順となっています。



図表 9　国内旅行で重視する項目

（資料：山口市宿泊者アンケート調査 H20）

山口市の魅力については、「温泉」が最も高く、続いて「明治維新」、「三海の幸」など、歴史や食に対しての感心が高くなっています。



図表 10–1　山口市の魅力

（資料：山口市宿泊者アンケート調査 H20）

図表 10–2　山口市の魅力

[%]

Q：次に並べる言葉は、山口市の観光要素を示すものです。山口市に対するイメージに近い言葉を1つ選択してください。		最近、2年間で3回以上旅行した人			旅行をしない消費者
		山口市に立ち寄った観光客		山口市周辺には来たが山口市に立ち寄らなかった観光客	
		宿泊観光客	日帰り観光客		
1	室町時代（大内文化）の史跡	11.0	9.4	2.5	3.9
2	明治維新の史跡	12.8	10.2	10.1	12.5
3	明治・大正時代の街並みや史跡	5.4	2.8	1.7	2.0
4	郷土料理や特産品	4.4	4.2	4.3	4.9
5	中原中也や種田山頭火などを育んだ文化的な雰囲気・風土	4.4	3.8	3.1	3.1
6	温泉（足湯）	10.2	8.4	2.8	6.7
7	現代の芸術・文化を育む文化施設	0.6	2.4	0.7	0.9
8	海や山などの自然景観	5.4	8.4	9.9	13.6
9	三海（日本海・瀬戸内海・響灘）の幸	6.0	6.2	14.0	10.9
10	萩・秋吉台など周辺を観光するための拠点	38.0	41.2	50.9	41.5
11	その他	1.8	3.0	0.0	0.0
合　計		100.0	100.0	100.0	100.0
		n＝500	n＝500	n＝1500	n＝1500

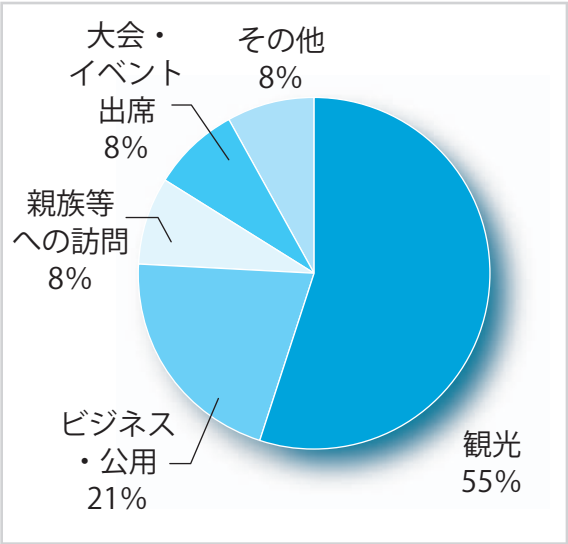
（資料：インターネットによる山口市観光に関する調査　H21）

[%]

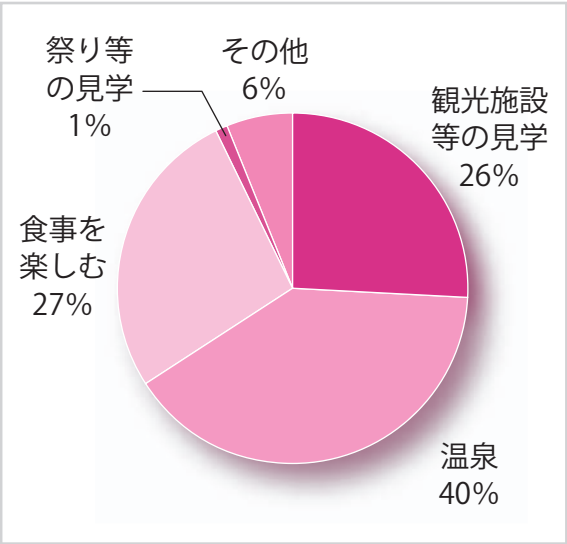
Q：（山口市に立ち寄らなかった観光客・旅行をしない消費者に対して）次に挙げるものは、山口市の主要な観光資源です。知っているもの全てを選択してください。<複数回答可>		最近、2年間で3回以上旅行した人			旅行をしない消費者
		山口市に立ち寄った観光客		山口市周辺には来たが山口市に立ち寄らなかった観光客	
		宿泊観光客	日帰り観光客		
1	国宝瑠璃光寺五重塔			19.7	16.2
2	山口県立美術館			15.1	10.3
3	湯田温泉（日帰り温泉、足湯）			26.3	17.9
4	山口情報芸術センター			0.6	1.5
5	常栄寺雪舟庭			3.8	3.1
6	山口七夕ちょうちんまつり			4.1	4.1
7	道の駅「仁保の郷」			2.5	2.5
8	山口サビエル記念聖堂			13.3	17.5
9	道の駅「きらら　あじす」			2.3	2.3
10	ＳＬ「やまぐち」号			46.3	39.1
11	一の坂川			1.6	1.8
12	山口きらら博記念公園・自然観察公園			3.7	3.5
13	ほたる鑑賞の夕べ			5.3	5.5
14	ふしの夏まつり			0.8	1.3
15	山口祇園祭			6.2	7.5
16	重源の郷			0.9	1.9
17	中原中也記念館			21.0	13.3
18	国民宿舎あいお荘			1.6	1.5
19	えび狩り世界選手権大会			1.6	3.3
合　計				176.7	154.1
				n＝1500	n＝1500

（資料：インターネットによる山口市観光に関する調査　H21）

旅行目的については、「観光」に次いで「ビジネス・公用」となりました。具体的な目的としては、「温泉」が多く、「食事を楽しむ」、「観光施設等の見学」の順となっています。



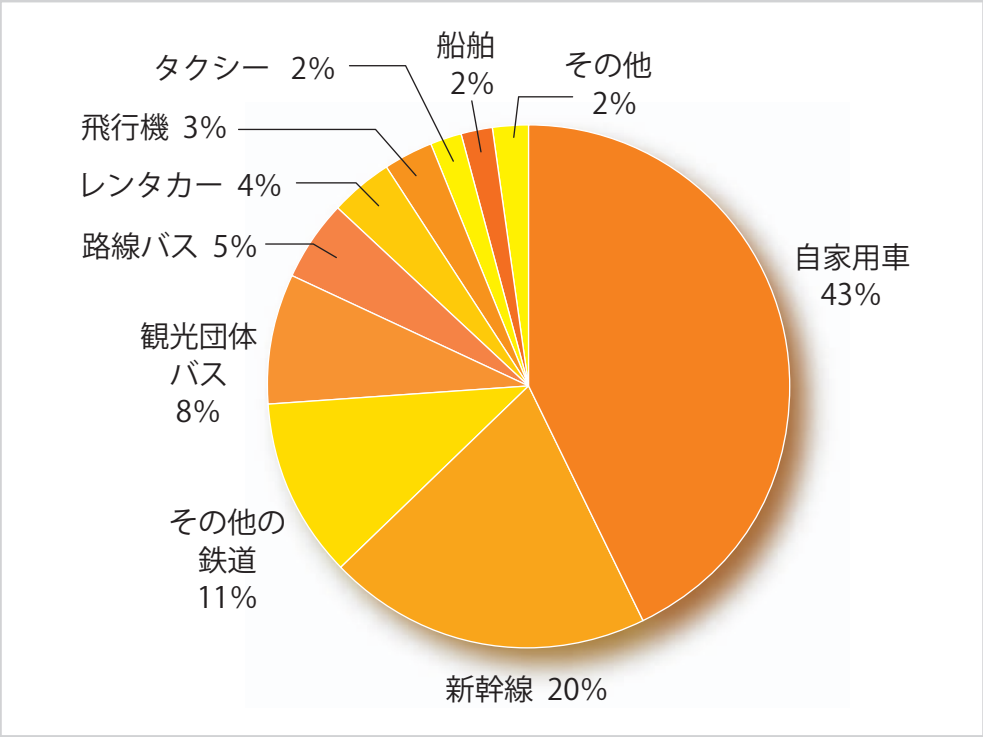
図表 11　旅行の目的



図表 12　具体的な目的

（資料：山口市宿泊者アンケート調査 H20）

交通手段については、「自家用車」が最も多く、次いで、「新幹線」、「その他の鉄道」となっており、「観光団体バス」は少ない状況になっています。



図表１３　山口市までの主な交通手段

（資料：山口市宿泊者アンケート調査 H20）

2　山口市の観光の特性

①　歴史・文化

ａ　歴史的遺産

本市は、室町時代、大内氏が京都に憧れ、京の都を模したまちづくりを行い「西の京」と呼ばれ栄華を誇った都市です。

また、明治維新の策源地として、木戸孝允や大村益次郎、井上馨ら維新の志士たちゆかりの場所や、鎌倉時代、東大寺再建に尽くした重源上人に関する史跡など、多くの歴史的財産が残っています。

さらに、ＪＲ山口線においては、30年前に復活したＳＬ「やまぐち」号が運行されています。

ｂ　個性的な文化や風土

本市には、国の伝統的工芸品として指定された大内塗や大内人形など、歴史に培われた祭や芸能、工芸が数多く今に受け継がれています。

また、近代を代表する詩人中原中也の生家跡に建てられた中原中也記念館や、種田山頭火が愛した庵を復元した其中庵、メディア技術を活用した新たな芸術文化の拠点である山口情報芸術センターなど、本市固有の文化資源があります。

②　自　然

ａ　温　泉

本市は、温泉に恵まれており、中でも湯田温泉は約 800年の歴史を有し、山陽路随一の豊富な湯量と「美肌の湯」として知られている良質な泉質を誇り、古くから栄えてきました。

また、県央部に位置し、周遊観光の拠点として利便性が高く、県下最大の宿泊受入能力を有しています。

b　自然環境

市域は、北は中国山地から南は瀬戸内海まで広範囲に及んでおり、国の指定名勝で、山口県を代表する渓谷の長門峡や、日本で初めて認定された森林セラピー基地など、山、川、海の豊かな自然と豊富な食材に恵まれています。

また、市街地の中心部には、国の天然記念物に指定されたゲンジボタルが生息する一の坂川が流れるなど、都市と共存した豊かな自然環境を有しています。

③　都　市

a　県都としての都市機能

本市は、県都として発展し、行政、文化、教育、商業など、様々な都市機能を有しています。社会経済の変化とともに、観光のスタイルは変化してきており、これらの都市機能が、一般の観光客のみならず、ビジネス観光客や市外からの買い物客の流入に寄与しています。

ｂ　高等教育機関

本市には、山口大学をはじめ、山口県立大学や山口学芸大学、山口芸術短期大学など、多くの高等教育機関が集積しています。特に、山口大学では、平成17年、経済学部に観光政策学科が設立され、観光政策についての研究や人材の育成が進められています。

本市の観光の課題に適切に対応するため、高等教育機関の人的・知的資源の活用が求められています。

ｃ　交通機能

本市は、山口県の中央部に位置し、広域交通の結節点となっています。広域道路網としては、中国自動車道と山陽自動車道が結節し、市内にＩＣ（インターチェンジ）が７つあり、ＥＴＣ割引の拡充による効果が顕れつつあります。また、平成23年開催の山口国体に向けて、山口と宇部を結ぶ山口宇部小野田連絡道路や、小郡と萩を結ぶ小郡萩道路の整備が進められています。

公共交通網としては、交通の結節点となっており、ＪＲ新山口駅ターミナルパークの整備に向けての検討も進められています。平成23年には九州新幹線が全線開通され、山陽新幹線との相互乗入が実施される予定となっています。

二次交通としては、市内定期観光バスやコミュニティバス、乗合観光タクシーが運行されています。

3　山口市観光の課題

①　滞在時間に関する課題

本市には、「温泉」に加え、大内氏や明治維新ゆかりの文化財や古くからの町並みがありますが、全体として観光客の滞在時間が短い状況にあります。今後は、足元の観光資源に磨きをかけ、新たな資源の発掘に努めるとともに、点在する観光資源を結びつけた広域観光や滞在観光の推進など、観光客の滞在時間の増加を図ることが課題となっています。

②　広域連携に関する課題

本市は、多様な魅力ある観光資源を有していますが、観光地間の連絡が十分に取れていない状況にあります。

また、近隣には、秋吉台や萩、津和野など恵まれた観光地がありますが、各地域の魅力を最大限に活用するために、お互いが連携し、広域的な観光地の魅力づくりを推進していく必要があります。

③　イメージ形成に関する課題

本市には、豊かな自然や食材など多くのブランド資源がありますが、市場では山口市の独自性といえるブランドイメージがはっきりと定着していない状況にあります。

付加価値の高い商品の開発や、「温泉」や「食」などのブランドイメージを高めることにより、情報発信力の高いイメージを形成することが課題となっています。

④　産業間連携に関する課題

観光は、宿泊・飲食・商業・運輸など、様々な産業から成り立っている総合産業ですが、実際はその意識が薄く、産業間で十分な連携が取れていないため、効果が共有できていないのが現状です。

また、本市ならではの素材を観光面で十分に生かせていないことから、まずは、観光の大切さを民間業者、並びに市民が認識し、産業間連携を図ることが課題となっています。

⑤　ホスピタリティに関する課題

観光地における人と人の交流は観光客の印象に強く残ります。特に、今後ますます増加する個人客の満足度は、地域のホスピタリティが大きく影響します。「山口に来て良かった」と思っていただくためには、市民一人ひとりが「おもてなし」を意識し、山口市全体のホスピタリティを育んでいくことが課題といえます。

⑥　情報提供に関する課題

観光客のニーズの変化に合わせ、人数や世代、季節や流行に応じた様々な楽しみ方が望まれていますが、本市の多様な魅力を発信できていない状況にあります。

観光情報の提供は、観光客の誘客の上で非常に重要であり、あらゆる機会を捉えて情報発信していく必要があります。

また、携帯電話やインターネットの普及に合わせ、どこからでも観光情報が入手できる仕組みづくりと、選択される情報を発信していくことが課題となっています。

4　山口市ＳＷＯＴ分析

強さ Strength	弱さ Weakness
・県の中心部でアクセス良好 ・まちなか温泉地、観光地がある ・海の幸や山の幸が豊富 （海、山、川の豊かな自然がある） ・山口県の宿泊拠点（受入能力が高い） ・県の文化施設が多い （県都として様々な都市機能が集積している） ・ＳＬが走るまち ・北九州市と広島市の１００万都市の中間に位置する ・伝統的な祭りや芸能・工芸がある ・学術研究機関が多くある ・大規模なイベントや大会が実施可能な施設がある ・東アジアに近い ・歴史遺産が多い（固有の歴史遺産がある） ・近隣に有名な観光地（萩・秋吉台・津和野）がある	・温泉情緒がない ・二次交通が不十分 ・食の魅力に欠ける ・体験プログラムが不十分 ・ホテル、旅館の老朽化 ・マスコミの活用が不十分 （観光地としての知名度が低い） ・夜の観光に魅力が乏しい ・旧市町の連携不足（観光振興団体が複数存在） ・バリアフリー化が遅れている ・住民の観光に対する協力が少ない ・まちの統一イメージがない ・福岡、広島に比べ人口規模が少ない ・観光分野の人材不足（人が活かされていない） ・景観の喪失 ・山陰観光地との連携不足 ・ブランド商品がない
機会 Opportunity	**脅威 Threat**
・全国規模の大会開催（2011 年国体） ・世界規模の大会開催（2015 年世界ジャンボリー） ・高速道路料金の割引 ・グリーンツーリズムへの期待 ・九州山陽新幹線の相互乗り入れ開業（2011 年） ・観光立国による訪日外国人観光客の増加 （中国個人ビザの発給の影響） ・団塊の世代のリタイアに伴う市場拡大 ・食の安全への関心の高まり ・インターネットの普及による情報提供	・ビジネス観光客が減少 ・団体旅行から個人旅行へシフト ・地域間競争の激化 ・大規模災害、感染病の発生 ・政権交代による政策転換

資料：山口市観光交流基本計画策定委員会ワーキング部会による分析（H21）

－ＳＷＯＴ分析とは－

マーケティングにおける市場環境分析の一般的な手法として、ＳＷＯＴ分析という手法があります。企業等が新たなビジネスを展開する際等に市場環境を自社の強み（Ｓ：Strength：資源等）、弱み（W：Weakness）、市場機会（O：Opportunity：市場の可能性等）、脅威（T：Threat：競合者等）の要素に分けて分析し、４象限に展開図示し、対策を考える方法です。

観光･集客においても、地元関係者や外部の専門家が参加して付箋を使ったワークショップ方式で SWOT 分析を行い、地域の強みや売り物となる資源は何か、弱点は何か、追い風となる市場機会はあるか、あるいは競合する地域はあるかを明らかにすることが有効と考えられます。

そして、その結果を基に強みを伸ばして活用する方法、弱点を補う方法あるいは弱点を強みに転換する方法、市場環境を踏まえた対応、他地域との差別化の方法等を考えることが重要です。

山口市観光交流基本計画策定委員会委員名簿

（五十音順）

氏　名	主な役職	備　考
青木尚二	(社)日本旅行業協会中四国支部山口県地区会会長	
大庭達敏	(財)山口観光コンベンション協会理事長	委員長
林　孝介	(社)山口県バス協会会長	平成21年6月まで
楞川幸太郎		平成21年7月から
桑原祥次	徳地商工会会長	
重岡　隆	湯田温泉保養所連絡協議会会長	
重村寛和	湯田温泉料飲社交組合組合長	
柴田守之	ＮＰＯ法人あとう観光協会理事長	平成21年11月から
末冨延幸	山口市観光ボランティアガイドの会会長	
津田末朗	山口市物産事業者連絡協議会会長	
中村棟俊	徳地観光協会会長	
中野和人	山口地区タクシー協会会長	
中野　勉	山口商工会議所会頭	
西村正伸	湯田温泉配給協同組合理事長	副委員長
原田勝昭	山口県央商工会副会長	
松田博良	秋穂観光協会副会長	
宮川　力	湯田温泉旅館協同組合理事長	

山口市観光交流基本計画策定委員会ワーキング部会委員名簿

（五十音順）

氏　　名	主　な　役　職	備　　考
荒　瀬　公　明	湯田温泉配給協同組合事務局長 湯田温泉旅館協同組合事務局長	
飯　田　裕　史	山口商工会議所事務局長	
落　合　重　武	ＮＰＯ法人あとう観光協会事務局長	平成 21 年 11 月から
鈴　木　克　彦	(財)山口観光コンベンション協会常務	
時　乗　輝　男	秋穂観光協会事務局長	
前　田　繁　志	徳地観光協会副会長	

山口市観光交流基本計画策定委員会特別委員名簿

（五十音順）

氏　　名	主　な　役　職	備　　考
朝　日　幸　代	山口大学経済学部観光政策学科教授	
内　田　恭　彦	山口大学経済学部経営学科教授	
齋　藤　英　智	山口大学経済学部経済学科准教授	
野　村　淳　一	山口大学経済学部経済学科准教授	
藤　田　　健	山口大学経済学部経営学科准教授	

(注)役職名などについては平成 22 年３月現在の名称である。

策定経過

年　月　日	内　　容
平成20年11月1日～平成21年4月30日	はがきによる観光客 (宿泊･日帰り客対象) に関する調査 （回収数　約 900 通）
平成20年11月10日～平成20年12月25日	宿泊者に関する満足度調査（配布数 7,000 通、回収率約 11%）
平成20年11月14日～平成20年11月30日	市民対象の潜在的観光資源・観光振興に対する調査 （配布数 5,000 通、回収率約 37%）
平成21年3月16日	山口市観光交流基本計画策定方針決定
平成21年5月21日	第１回山口市観光交流基本計画策定会議
平成21年5月27日	第１回山口市観光交流基本計画策定委員会
平成21年7月16日	第１回山口市観光交流基本計画策定委員会ワーキング部会
平成21年7月30日	第２回山口市観光交流基本計画策定委員会ワーキング部会
平成21年8月21日～平成21年8月29日	団体旅行者対象の魅力度･満足度調査（回収数　85 件）
平成21年8月27日	策定委員会勉強会 (特別委員による講義)
平成21年9月3日	第３回山口市観光交流基本計画策定委員会ワーキング部会
平成21年9月8日～平成21年9月15日	旅行会社ヒアリング調査（旅行会社数 14 社）
平成21年9月18日	第４回山口市観光交流基本計画策定委員会ワーキング部会
平成21年9月28日	第２回山口市観光交流基本計画策定委員会
平成21年10月1日	第５回山口市観光交流基本計画策定委員会ワーキング部会
平成21年11月6日～平成21年11月8日	インターネットによる山口市観光に関する調査 （回収数 4,000 通）
平成21年11月18日	第６回山口市観光交流基本計画策定委員会ワーキング部会
平成21年11月27日	第３回山口市観光交流基本計画策定委員会
平成21年12月18日	第４回山口市観光交流基本計画策定委員会
平成22年1月14日	第２回山口市観光交流基本計画策定会議
平成22年1月25日	経営会議 (計画案に対する審議)
平成22年2月1日～平成22年3月2日	計画案に対するパブリックコメントの実施
平成22年2月15日	山口市市議会議員説明会開催
平成22年3月2日	第７回山口市観光交流基本計画策定委員会ワーキング部会
平成22年3月17日	第５回山口市観光交流基本計画策定委員会
平成22年3月23日	経営会議 (山口市観光交流基本計画　政策決定)